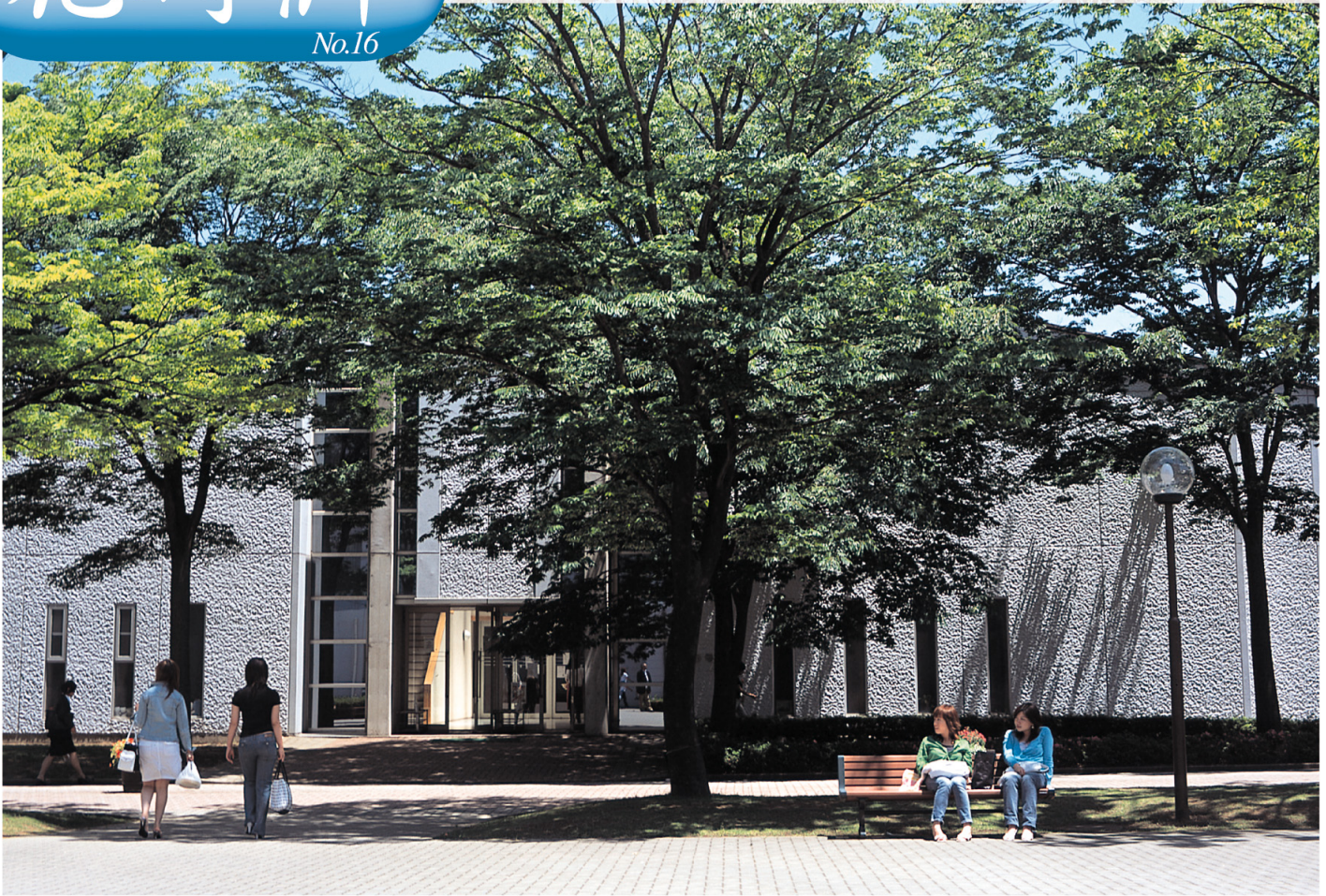




大学院比較文化専攻の開設

比較文化専攻長 山本由美子



Yumiko Yamamoto

今春、川村学園女子大学大学院人文科学研究科に新たに比較文化専攻が開設されました。この専攻科は地域文化、社会文化コミュニケーション、女性学の三つの分野からなっています。つまりわが大学のほとんどすべての学科から大学院に進学できる道が開かれたことになります。

比較文化という名称は、簡単に説明できるものとはいえませんし、その議論を始めれば果てしないことになりかねません。したがって当面は、現在の世界における私たちの生活や思想などは、比較という視点ぬきには客観的に認識しえないという事実を見据えて、理解しようと努力するのが重要だと思っています。

今日私たちは、もはや絶対的に正しいという世界観を持ち得ません。つまり無知のせいで自分が理解できない人、異質な人や自分と価値観を共有しない人をすべて敵とみなして排除することはできません。現代の戦争は過去とは比較しようのないほどのスケールの破壊をもたらし、その結果地球

の存続そのものさえ危うくするでしょう。無知の責任が問われる時代なのです。こういう時に私たちにできることは、可能な限り正確な知識を得て、多様な方法で自分の外の世界と接触をはかり、さまざまな人間への理解を深めることしかないのではないのでしょうか。そうした地道な努力、愚直な道が実はいちばん確実に人間世界の存続を保証するといえるのかもしれません。

大学院とは院生、教員といった立場を超えて、学問を志す人が目標を共有し、互いに切磋琢磨して真理の道に分け入るところでした。しかし今日ではそのうえに、大学で身につけた知識を基礎にさらに視野を広め、深い理解をもって世界に貢献できるようにするという重要な使命を担うようになっていると思います。比較文化という学際的な専攻を通して、川村学園女子大学が大きな世界にむけて真の情報発信地になることを、そして多くの学生が目を開いて新たな可能性に挑戦してくれることを期待しています。

新しい顔



簗下成子

Seiko Minoshita
心理学科助教授

臨床心理、司法精神鑑定における心理査定を専門分野とし、精神障害者の表情認知、高次脳機能、こころの理論、災害時の心理援助の各テーマで研究をしています。カウンセリングでは、特に芸術（絵画療法、もの語り療法）を通して楽しみながら治療・援助を行い、クライアント、患者さまと共にこころのはたらきの謎にとりくんでいます。学生のみなさんとも、カウンセラーに必要な資質や感性を、芸術や会話をとおして学び、伝えあえる喜びに感謝しております。いつも学生のみなさんからいただけるみずみずしい生命力には感動しています。



藤田節子

Setsuko Fujita
社会教育学科助教授

川村学園女子大学に着任して、まず嬉しかったことは研究室からの眺めがいいことでした。「かじ池亭」の桜もあつという間に青葉になり、水田に水が張られ、緑が日一日色を変えていきます。季節の移り変わりが感じられるキャンパスで過ごせることを幸せに感じます。

私の専門領域は図書館情報学です。専門図書館、データベース会社勤務を経て、情報コンサルタント、大学の非常勤などを経験しています。ネット時代の情報利用と情報管理に、図書館情報学は欠かせない知識・技術とスキルを提供します。緑豊かなキャンパスで、学生の皆さんとともに楽しく学んでいきたいと考えています。

生涯教育研究会だより

教育学部発足と同時にできた部で、今年で14年目になります。

現在、約40名の部員がいます。主な目的は、子どもたちの遊びや学習援助などを、小学校、公民館、少年自然の家、生涯学習センターなどで行っています。

平成15年8月2日～4日の2泊3日で実施した小学校5・6年生対象の事業、「体験inさわやかちば県民プラザ&モラロジー研究所」での写真です。子供たちと触れあっていると、とても元気がでます。



高田文子

Fumiko Takada
幼児教育学科講師

昨年度まで15年程あちこちの大学にて非常勤講師をしてまいりましたが、この度そのスタンスの定まらない生活に別れを告げ、この学園で常勤講師としてのスタートを切らせていただくことになりました。

専門は、日本教育史、特に幼児教育法制度史ですが、教育行政学の専攻出身ということもあり、今まで教職の授業を多く受け持ってきました。当大学では、保育実習担当ということで、戸惑いながらも日々学習しております。

大学とは、学生にとって知識はもとより方法論を身につけるところだと思っておりますので、授業を通じてそれを伝えることを第一に励んでまいります。



細井 香

Kaori Hosoi
幼児教育学科講師

本年4月より、幼児教育学科に着任いたしました。新任ではありますが、私にとっては川村学園の歴史は長く、幼稚園から大学院、研究生までの在学年数を数えると、23年もの年月を本学園で過ごしてまいりました。振りかえれば、この学園では、たくさんの心温かい先生方との出会いがありました。うれしいときは一緒に喜び、つらいときには親身になって励まし支えていただいたことを思い出します。今度は私が学生の皆さんの夢を応援する番です。

幼児教育学科では、これまでの経験を生かし、保育士関連の講義を担当させていただくことになりました。未熟者ですが、精



一杯、皆様のお役にたてるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



阿部祐加子

Yukako Abe
幼児教育学科学生研究室

異動教員

末 松 弘 行（教授） 社→心
大 熊 保 彦（ 〃 ） 情→心
森 田 玲 子（ 〃 ） 社→幼
野 村 文 子（ 〃 ） 観→日
小野崎 康 裕（ 〃 ） 史→生
湯 浅 弘（助教授）生→史
松 井 浩（ 〃 ） 生→情
梅 澤 嘉一郎（ 〃 ） 生→社
高 見 和 至（ 〃 ） 日→社
荻 原 延 元（ 〃 ） 幼→日

教員の退任

心理学科 松 岡 陽 子（助手）
情報コミュニケーション学科
古 藤 泰 弘（教授）
庄 司 裕 子（助教授）
社会教育学科 加 納 正 巳（教授）
幼児教育学科 塚 脇 澄 子（教授）
菊 地 明 子（助教授）
観光文化学科 白 坂 蕃（教授）
高 多 清 在（ 〃 ）
生活環境学科 亀 田 光 昭（ 〃 ）
高 良 聖（助教授）

BOOKS

●若桑みどり
『クアトロ・ラガッツィ。天正少年使節と世界帝国』
平成15・11・26
●今関敏子
『旅する女たち』
——超越と逸脱の王朝文学——
平成16・4・10
●高山啓子
『場所感の喪失＜上＞電子メディアが社会的行動に及ぼす影響』
ジョシュアメイロウィッツ著 安川一、高山啓子、上谷香陽 訳 新曜社 2003年
メディアが変化すると、人々の行動、思考のあり方も変化していく。特に20世紀の電子メディア出現によってどのような変化が起こったのか、E. ゴフマン、M. マクルーハンの理論と結びつけて論じられている。

公開講座

●●●FEATURE

サマー・カレッジ&ウィークエンド・カレッジの開催

人間文化学部長
倉智 恒夫

高校生のための公開講座をブレ・カレッジと命名しましょうか。今年度のブレ・カレッジは、副専攻制度の発足に伴い、「高校生のためのサマー・カレッジ―副専攻で学ぶ9つの可能性」と題する第一セッションと、主専攻を柱とする「高校生のためのウィークエンド・カレッジ―学科で学ぶ知の

世界」と題する第二セッションからなります。本学の豊かでフレキシブルなカリキュラムを縦横に組み合わせ組織化して、「主専攻」と「副専攻」の二つの専門領域で広くて深い知見を身につけて頂こうというのです。高校生諸君ばかりでなく父母、教員のかたがたの参加が期待されます。



高校生のためのサマーカレッジ【副専攻で学ぶ9つの可能性】

開催日		副専攻	時間	公開講座	
7/28 (水)	英語	英語を通して世界を知る	11:00～11:45	田中淑子	英語でニュースを聞こう
			12:50～13:35	羽鳥百合子	TOEIC入門
	日本語教員養成	日本語教育を学ぶ	11:00～11:45	竹端瞭一	「あそこにタクシーがいます」の可能性—存在動詞「ある」と「いる」
			12:50～13:35		「わたしは大学で日本語を学んでいます」—トルコ語も日本語と同じ語源
7/29 (木)	生命倫理	生と死について考える	10:15～11:00	湯浅 弘	尊厳死再考
			11:10～11:55	野村文子	死と生の境界—宗教学の視点から
	地球環境	地球環境の過去現在未来	10:15～11:00	二上政夫	白亜紀の環境
			11:10～11:55	坂口武洋	地球環境と人類
	社会科学	社会を知るって面白い	12:50～13:35	池田輝雄	経済という環境
			13:45～14:30	石井龍一	世界の国々は持ちつ持たれつ
			14:40～15:25	早川克巳	新聞を読む 社会を読む
			12:50～13:35	若桑みどり	マンガやアニメのジェンダー
	女性学	これが私の生きる道	13:45～14:30	柚木理子	これからの女性の生き方・働き方
			14:40～15:25	内海崎貴子	学ぶ場所でのセクシュアルハラスメント
7/30 (金)	芸術	すぐそこにある芸術	10:15～11:00	荻原延元	生活デザイン—ファッションデザインとジャポニズム
			11:10～11:55	小松省三	芸術鑑賞—川をテーマにした音楽を聴いてみよう
	健康科学	より良く生きるための身体	10:15～11:00	森田玲子	毎日の暮らしに活かすダンスセラピーへの招待
			11:10～11:55	高見和至	からだで創るこころの健康・快食・快眠・快便の心理学
	地域研究	地域研究の魅力	10:15～11:00	川端香男里	ユーラシアと日本
			11:10～11:55	倉智恒夫	統合後のヨーロッパ
			12:50～13:35	谷林眞理子	映画にみるアメリカ大統領
			13:45～14:30	西川 誠	『菊と刀』を読む—外国人の日本論

高校生のためのウィークエンドカレッジ【9学科で学ぶ知の可能性】

開催日		副専攻	時間	公開講座	
9/4 (土)	心理	こころを科学する	10:15～11:00	川崎恵里子	記憶の科学
			11:15～12:00	渡邊昭彦	こころの科学と脳の科学
	社会教育	福祉の現場と子どもの今	12:50～13:35	梅澤嘉一郎	福祉のしごと
			13:50～14:35	坂口 早苗	児童(幼児)虐待—その現状と課題
9/11 (土)	幼児教育	保育の世界に誘う	10:15～11:00	細井 香	子育て支援と保育士のお仕事
			11:15～12:00	尾見敦子	ヨーロッパのカリヨンとアンティークオルゴールをたずねて
	史	16～18世紀の西欧の国際関係と英仏両国の盛衰	12:50～13:35	青木道彦	16～17世紀のイギリスの動向と国際関係
			13:50～14:35		ルイ14世時代のフランスの国際関係と国内政治
9/18 (土)	国際英語	西洋の活躍する女性たち	11:00～11:45	田中淑子	イギリス文学における「勝ち組」の女たち
			13:00～13:45	ケリアム・キスチャック	児童英語ワークショップの実践
	情報コミュニケーション	コンピュータはつながる	11:00～11:45	本郷 健	ネットワーク思想の誕生
			13:00～13:45	田中 裕	コンピュータをつなげてみよう！
	日本文化	日本文化のおもしろさ	11:00～11:45	荻原延元	北斎と広重
			13:00～13:45	竹端瞭一	ひらかなのはじまり
	観光文化	旅の楽しさを見つけよう	11:00～11:45	長島一比古	マザー・グースと英語の世界
			13:00～13:45	豊川 洋	ディズニーランドはなぜ楽しいのか
	生活文化	女生と生活	11:00～11:45	若桑みどり	メディアとジェンダー
			13:00～13:45	坂口武洋	人と水の関係—皮膚水分量の測定

オリエンテーションレポート

●●● ORIENTATION

●国際英語学科



上野の国立西洋美術館にてヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展と常設展を鑑賞した。そして東天紅上野店にて在学生、先生方とともに昼食会。在学生による英語での教員紹介と英語劇『シンデレラ』を見た。今年新しくスタートした国際英語学科の幕開けとなるような一日であった。

●史学科

江戸東京博物館で新撰組展を見学。遊覧船にも乗れて、楽しかったです。

●心理学科



ホテルで食事をしみつつ、教員と学生全員が自己紹介をした。全員が出席した和やかな雰囲気のなか、絆を深めることができたらしいね。

●社会教育学科

本学科は総合型生涯学習施設及び博物館の見学、入学記念パーティーを行い、学生と教員の笑顔に満ちた一日となった。下の写真は入学記念の1枚、4年後の姿が楽しみながざりである。



●情報コミュニケーション学科

今年度、情報コミュニケーション学科はホテル（心理学科同様クレストホテル柏）にて昼食をとりながら、新入生間および新入生と教職員との間の親睦を深めました。特に今年は新入生および教員全員で行った自己紹介が参加者全員にとって印象深いものとなりました。壇上に上がって全員の前の自己紹介を行ったため、新入生にとっては多少敷居が高かったようです。それでも新入生一人ひとりが自分なりの自己紹介をしてくれたため、昼食会場は大変盛り上がりしました。オリエンテーション終了後、新しい友達の輪がいくつも出来上がっているのが確認できました。新入生にとっては思い出深い、そしてサポートする教職員としてはホッとできた一日でした。

●幼児教育学科

茨城県江戸崎町にあるボティロンの森で、パン作りや散策などを楽しみました。



●観光文化学科



例年の通り、本学科では益子でオリエンテーションを行いました。場所は変わらなくとも、人が替わり、学生共々、喜々として、陶器づくりにはげんで来しました。

●日本文化学科

江戸東京博物館を見学後、近くのホテルの最上階でパーティー、さらには浅草寺・仲見世にも出かけて盛沢山となりました。



●生活文化学科

4月9日（金）バス2台で横浜ランドマークタワーに直行、フォーラムよこはまで男女共同参画事業について、国際食料計画（WFP）の世界の飢餓のこどもについて講演を聞き、午後は横浜美術館で学芸員の説明のもとで展覧会を見学。広い世界を知った有意義な一日。

写真は、よこはま美術館で学芸員の説明を聞く新入生たち。



キャンパスから

大学院
人文科学研究科
比較文化専攻

本年度充足した比較文化専攻博士課程前期（修士）には地域文化研究、社会文化コミュニケーション、女性学の領域（分野）があります。平成16年度女性学専攻2名、社会文化コミュニケーションの表象文化専攻1名が入学しました。そのうちひとりはず育てを終えた主婦、2人は川村の生活環境学科を15年度に修了した学生です。それぞれ、1970年代における日本の主婦の「マイホーム幻想」、「ひな祭りのジェンダー」、「ハリウッド映画のメロウ映画のイデオロギー」という川村ならではの研究課題をきっかけ教師らとともに張り切って演習を行っています。

また女性学博士課程にはひとりの研究者が入学しました。満州映画の女性監督の研究です。この研究が成果をあげれば、ジェンダー、表象、コロニアル研究に一石を投じることになります。教師も全力の応援態勢で臨んでいます。



はじまったばかりの課程ですが、希望は大きくふくらみ、川村の学問が学界に知られることをめざしています。



生活文化学科

栄養／食品学を中心に、環境／消費／福祉、健康科学、ジェンダー女性学、美術／ファッションなど、女性の生活と仕事をとりまく多角的な技能／知識を磨く新しい学科の発足。大量の学生（88人）を迎え、元氣澆潤、新学期を開始しました。クラスも活気があり、熱心に勤勉な学生が多いことはすばらしいことだと教師はみな喜んでいきます。初心を忘れないで！



仏検 2 級合格！

在日フランス大使賞に輝く！

平成15年度文部科学省認定実用フランス語検定で国際英語学科の池田千春さんと生活文化学科の太田智子さんのお二人が2級合格を果たしました。太田さんはさらに3級の成績優秀者として在日フランス大使賞を受賞しました。学生諸君の今後の活躍が期待されます。

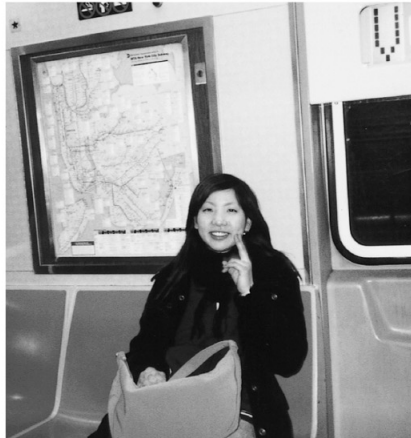
(人間文化学部長 倉智恒夫)

仏検合格記

私は2回目の挑戦で念願の仏検2級に合格することが出来ました。初めて受けた時は『話す』ということに慣れていなかったこともあり自己紹介もおぼつかず、フランス人が話すフランス語にもついて行けずに只々キョトンとしているばかりでした。その経験を経て、フランス語の「会話」に慣れることがかなり重要であることを認識し、テープを何度も聞いたり、テレビのフランス語会話をビデオに撮って暇さえあれば繰り返し見るようにしました。その甲斐あって2度目の試験では、相手の言葉がスムーズに入ってきて何を聞かれているのか理解できるようになっていました。答えるのにはとっさに単語が出てこなかったため、思い出した単語をうまく使って会話を成り立たせました。例えば、パリに行つて何をしたいのかと聞かれた時、私はカフェに行つてみたいと答えました。それはなぜなのかと聞かれてとっさに *J'aime le café au lait.* と答えてしまいました。あまりに単純な答えで試験官の方も笑っていましたが、場も和んで何とか試験を終えることが出来ました。

頭で考えるより何よりも、伝えようとする気持ちを持って、とにかく話せることを話してコミュニケーションをとる姿勢が必要不可欠なのだと思います。

(国際英語学科 池田千春)



映像資料のある博物館、資料館から

首都圏には貴重な映像資料を収集し、公開する施設があります。今回は特により利用頻度の高い3つの公共施設について紹介しましょう。

まず中央区京橋の**東京国立近代美術館フィルムセンター**です。元々この場所は明治末には福宝館と呼ばれた映画館があって、やがてこの周辺には日活・大映・日本ワナブラザースなど、主な映画会社の本社が集まり、映画ゆかりの地ともなります。この近代フィルムセンターでは日本および世界の映画の名作、旧作が大ホールにて上映されており（通常は毎日午後12本上映）、入場料は一般500円、学生300円で見る事が出来ます。上階では日本映画の歴史がパネル展示され、世界で評価の高い小津監督の貴重な無声映画や溝口作品等の一部を短時間ですがモニター画面で見ることが出来ます。また特別企画展もあり、今夏は人形アニメーション作家の展示が催されています。図書館にはキネマ旬報やスクリーンなど映画雑誌のバックナンバーが見事に揃い閲覧できます。

次に両国の江戸東京博物館（地下一階）映像ライブラリーは特にお薦めしたい所です。ここでは収蔵作品を自ら選び、1本1本をゆっくりとくつろいで見る事が出来ま



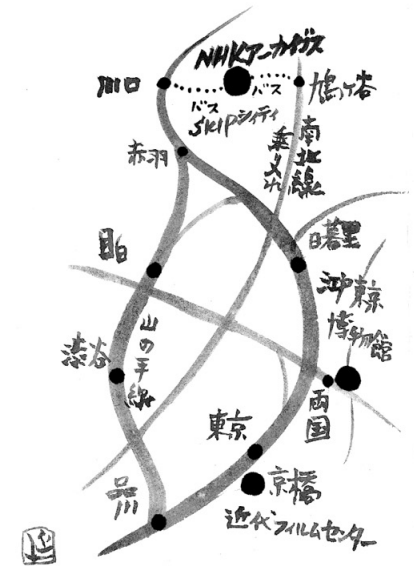
東京国立近代美術館フィルムセンター（京橋）

す。なんと博物館内でありながら入場は無料で、江戸東京の歴史、風俗、自然、芸能を学ぶには最適です。とくに平日は意外に空いており、穴場の一つです。利用時間は9:00から17:30（但しライブラリーの受付は17:00）まで。また上階には江戸・東京に関する専門図書館が併設されています。

川口市上青木の**NHKアーカイブス**は2003年にオープンした施設です。ここはスキップシティと呼ばれる大規模な建造物の中にいくつかのゾーンがあり、公開ライブラリー（NHKアーカイブス）、サイエンスワールド（川口市立科学館）、映像ミュージアム（映像の学習、テレビ制作体験、ワークショップ）などが集まっており、テレビの歴史や特殊映像制作などを知るには参考になります。現在アーカイブスではNHKの2000本以上のテレビ番組、200本以上のラジオ番組が公開されており、2006年にはテレビ5000本、ラジオ500本をめざしているとの事です。アーカイブスの受付は9:30から16:30。

なおアーカイブス利用の際、とくに休日
は混みますので承知の上で出かけてみて下
さい。

(日本文化学科助教授 荻原延元)



「卒業生は今」原稿募集のお知らせ

「花時計」は、大学での今をお伝えするために学内ばかりでなく、卒業生にもお送りさせていただいています。「卒業生は今のコーナードでは、皆さんからのひこと（400字程度）をお待ちしています。卒業年と学科を必ずお書き添え下さい。採用分には大学の図書カードをさしあげます。

原稿宛先 川村学園女子大学広報委員会

卒業生は今

●●● MAILBOX

三井麻耶子

英語英文学科2003年卒
(現国際英語学科)

川村学園を卒業して早1年が経ちました。私は今現在、東京全日空ホテルで働いています。ホテルと聞くとフロントやベルを思い浮かべる人がほとんどでしょう。しかし、私の仕事の内容はレストランのキャッシャーです。一日中立っていたり、食事が出来なかったり、夜勤シフトがあったりと体力的には本当に大変な仕事ですが、どんなに疲れていても、常に笑顔を保つように心がけています。キャッシャーという仕事は、レストランの受付的な役割を担っているため、お客様の感想やクレームなど全てに対応しなければなりません。お客様に不快な思いをさせずに、楽しい時間を過ごしていただくためにも、笑顔でいることが私にとって重要な役割なのです。そのためにも、常に健康面や精神面に注意をはらい、心にゆとりを持つようにしています。また、お客様の70%は外国の方なので、いかに英語力が必要であるか思い知らされました。大学生活で培った英語力を活かしつつ、まだまだ足りない部分を勉強している最中です。

私は、お客様のケアから英語力まで必要とするこの仕事に、大変喜びとやりがいを感じています。

陶山恭子

心理学科2003年卒



私は現在精神病院に勤務し、精神保健福祉士(P.S.W.)として働く為の研修(臨床の場で、主に作業やレクリエーションを行う)を受けている。毎日患者さんと接していると悩む事や考える事は多いが、その反面彼らの魅力に気付かされる事も多く、そこには普通の人間関係が退屈に思えるほどの面白さがある。

研修終了後は、福祉ホームB型という症状が相当程度改善している精神障害者を対象に社会復帰と自立の促進を図る事を目的とした施設に勤務する。

今後日々努力を重ね、私自身が大きく成長し、また誰からも信頼されるP.S.W.を目指し頑張っていきたい。

芹沢志津江

史学科2004年卒



私は、今年三月卒業し、ある人材派遣会社に採用されました。現在は派遣社員として「江戸東京博物館」に勤務しています。

在学中に学芸員の資格を取得し、博物館

で働きたいと思っていた私にとっては満足いく職場の一つです。

派遣社員の仕事内容は、チケット販売と展示室内及び、受付での案内業務といったところですが、私たち案内係は江戸東京博物館の第一線のお客様と接しているため、お客様からは博物館員の一人とみられて、様々な質問を受けます。なかには学芸員でなければ答えられないような難しい質問もあります。こういった質問にもある程度答えられるように、知識を身につけることと、外国人の来館も多いので、英会話能力を磨くことがこれからの自分の課題だと思います。

お客様と接する現在の案内業務も本当に楽しい仕事ですが、この仕事を基礎にして「学芸員として働きたい」という将来の夢の実現に向かい、より充実した毎日を送ってこうと思っています。

友松由実

社会教育学科2002年卒



私は、4月から、長野県にある国立信州高遠少年自然の家に勤務しています。在学中にボランティアとしてお世話になっていた施設で働くことができ、とても幸せなことだと思います。

大学卒業後、地元の金融機関に就職しましたが、長年の夢をあきらめきれず、転職することを決めました。転職するにあたり、さまざまな不安もありましたが、友人の励ましや両親の支えがあったからこそ、充実した毎日が送れているのだと感謝しています。

現在は、施設整備、ボランティアや研修指導員の活動支援などを行っています。利用者とも直接接する機会が多いので、たくさんの方と出会い、多くの笑顔を見ることが、やりがいにつながっています。

大学時代の4年間は、私の人生を大きく変えるものとなりました。これからも、初心を忘れることなく、更なる目標にむかって努力していきたいと思っています。

櫻井良美

幼児教育学科2001年卒



大学時代は、バスケット部副主将、学祭実行委員、謝恩会実行委員長など、慣れない役職につきながらも、たくさんの方々に支えられて、常に新しい事にチャレンジし、充実した日々を送っていた私も、現在は母園の幼稚園教諭となり、4年目を迎えています。

今年の3月には、初めて担任となったクラスの子ども達が卒園して、三年間一緒に生活していたので、少し寂しい気持ちもありましたが、何より子ども達の成長した姿に驚かされました。

「子どもが好き」という理由だけでは続けられない場面もありますが、日々の子ども達との姿には、私達保育者の苦勞が全て喜びに変わってしまうようなパワーがあり、その姿をたくさん見ていけるよう準備と研究を重ねていき、新たな成長へと繋がるよう、私自身がまだまだ勉強していかなければいけないと感じています。子ども達に負けられないよう笑顔いっぱい、元気いっぱいで毎日を楽しみ、一人ひとりの出合いを大切にしていきたいです。

宮崎奈津子

日本文化学科2004年卒



卒業式から3ヶ月。私は現在金融の仕事に就いていますが、とにかく専門知識を数多く必要とするこの仕事が始まってからのおよそ1ヶ月は、本当に緊張の連続でした。しかし同期や周りのスタッフや上司のみなさんが良い方ばかりで、今は結構毎日楽しく過しています。なんと最近ではスタッフさんからも逆に頼られる事もしばしばあり、仕事を覚えて成長していくことが楽しいと思える様にもなりました。時には学生生活とは大きく違う生活に戸惑うこともありましたが、自分の選んだ道を精一杯頑張ろうと思っています。

平手香澄

生活環境学科2004年卒
(現生活文化学科)

私は現在、今年新たに設置された本学の大学院の人文科学研究科比較文化専攻に在籍しています。

学部生のときに、学生自らが映画の批評を行うという講義に出会ってから、映画の表象分析に興味を持った私は、学士論文で映画を取り扱いました。

分析作業には苦しいこともありましたが、何より作品を理解できたという喜びが優り、充実感を得ることが出来ました。

院生になった今も、映画の分析を行っています。学部で学んだことを更に発展させ論文を書くために、日々奮闘中です。

編集後記

- 投稿して下さいの皆様、協力して下さい編集委員に感謝したい。(W.K)
 - 編集初参加。ステキな紙面はO先生のお蔭です。(T.K)
 - 今回も多くの原稿に恵まれ、正門横の実物同様よい花時計ができました。(Y.T)
 - 緑が日一日と濃くなってきました。安らぎと活気のある学園に。(T.S)
 - 紫陽花の美しさは、雨上がりの時が一番のシャッターチャンスでした。(N.O)
- 発行日/平成16年7月15日第16号発行
制作/川村学園女子大学広報委員会